

日中友好神奈川 婦人連絡会

満蒙開拓平和記念館 見学会

4月24日(日)25日(月)、日中友好神奈川県婦人連絡会主催で満蒙開拓平和記念館見学と昼神温泉、花桃の里への一泊旅行を行い、神奈川・東京から28人が参加しました。今回は横浜日中友好協会のご協力を得て実現しました。

婦連の記念館訪問は2013年オープンした年の秋以来2回目でしたが、他の参加者はほとんどが初めてでした。

敷地には「鎮魂」と「平和友好・前事不忘・後事之師」の石碑がありました。

記念館では、まずDVD「満蒙開拓の真実」を視聴、満蒙開拓団の実態を知りました。展示の説明はボランティアの若い女性。1932年に「満州国」が建設されると「拓け満蒙！行け満州！」のかけ声のもと移民募集に応じて全国から青少年義勇軍を含め27万人の移民が送り出され、その中で



も特に多かったのが長野県で3万3千人にも上っていること。それは養蚕業の衰退による経済の疲弊に加え、村のリーダーの中に満蒙開拓を推進しようという人が多かったとの説明、しかし、この国策に反対した村長もいたとのことです。また教育が盛んだった長野県ですが1933年2月4日長野県で多数の学校教員などが治安維持法違反で検挙された2・4(にいよん)事件(教員赤化事件)があり、その後自由主義教育が押さえられたことも関係しているのではとの説明で、今後さらに調査研究の必要があると指摘されました。

「五族協和、王道楽土」と唱え、20町歩の地主になれるとマスコミや映画などで盛んに宣伝されて勇んで行った「満州」、その土地は元々中国人の土地で、それを奪ったのだ、と説明。壁に大きく敗戦前後の政府の方針二つ「居留民は出来得る限り定着の方針を執る」「満鮮ニ土着スル者ハ日本国籍ヲ離ルルモ支障ナキモノトス」など掲示されていました。が、無責任な棄民政策です。日本は満州国傀儡政権を作り、侵略して中国人民から略奪、殺戮し、そのあげく国策で送り込んだ満州移民はソ連の満州侵攻後は逃げ惑い、敗戦にあたっては放り出され切り捨てられて悲惨な結果となった。

境内には山本慈昭翁像や満蒙開拓供養地蔵尊がありました。二日目は月川の「花桃の里」へ、晴天のなか赤、ピンク、白の花が山一面に咲き誇り、鯉のぼりも泳いで、楽しませてくれた。今回の見学から無謀な侵略、植民地支配は絶対に行つてはならないと痛感し、歴史認識を深めるよい機会になりました。(番場明子)

青年学生部会 チャイ華

日中花見パーティ開催

4月2日(土)正午、日中お花見パーティーと称し、交流会を催しました。

前半一時間は各自持ち寄った昼食やスタッフで用意したお菓子などで飲食をしながらそれぞれ会話を楽しみました。後半一時間は日本語と中国語を使った伝言ゲーム、題あてゲームを行いました。

当日は肌寒く晴れ間の見えないうちでしたが、皆さん積極的にゲームに参加し、交流をされていて、笑い



声の絶えないとても盛り上がったお花見パーティーとなりました。(岡本えり子)

望月徳三氏が新会長 に選任

チャイ華の第4回全体会が6月26日(日)、横浜市中区にある「馬さんの店」で開催された。新会長には望月徳三氏が選任された。

望月新会長は「若い人達や各地の地域協会の皆様のご協力をいただきながら、微力ではあるが日中友好のために頑張りたい」と抱負を述べられた。